

土木学会 鋼構造委員会「鋼橋の診断小委員会」委員の公募

土木学会鋼構造委員会では、以下の研究小委員会を新たに設置いたします。本小委員会にご参加いただける方を公募いたします。本小委員会の目的および内容は以下の通りです。

【小委員会名称】

鋼橋の診断小委員会

委員長：下里哲弘教授（琉球大学）

幹事長：木ノ本剛（首都高技術㈱）

幹事：小野秀一（施工技術総研研究所）、加賀山泰一（阪神高速技術㈱）、村越潤（東京都立大学教授）、佐々木栄一（東京工業大学准教授）、玉城喜章（沖縄しまたて協会技術環境研究所）、荒牧聡（㈱建設技術研究所）

委員：公募による

【背景と目的】

重要インフラの橋は1960年代の高度経済成長期に多く建設され、供用から50年経過した橋の安全安心なメンテナンス技術が課題となっている。国は「道路の老朽化対策の本格実施に関する提言（H26年度）」に基づき、5年に1回の定期点検の義務化と適切かつ確実な診断と措置を実施するメンテナンスサイクルを示している。しかしながら、適切な措置を実施できる診断ガイドラインは整備段階の状況であるため、国や地方自治体の橋梁管理者は、点検後の診断において最安全側の判断として橋の通行止め等を判断し、その数が増加傾向の状況に至っている。特に全国約72万橋の橋梁の内、7割以上の約51万橋を管理している地方自治体では通行止め等が最近10年間で約3倍に増加し深刻な状態となっている。

以上の背景を踏まえ、本小委員会では「鋼橋」を対象とした耐力診断法に関する研究を実施する。鋼橋は交差点や渡河部等の長支間に多く建設され、複雑な立地条件となる都市内高架橋などの主要橋梁として多く適用されており、通行規制等が社会経済活動に与える影響は大きい。また、鋼橋の安全性に影響を与える損傷は「疲労」と「腐食」である。その2大損傷の診断の課題解決のためには、損傷の発生原因に対する十分な調査と分析を行い、実験や解析などの科学技術を駆使した研究成果に基づく適切かつ信頼性を有した耐力診断技術の構築が必要不可欠である。

したがって、本小委員会では、適切かつ信頼性のある診断技術の構築を目的として、適用かつ信頼性のある措置の判定が可能な診断ガイドラインの構築に寄与したいと考えております。なお、本診断技術は、疲労は首都高速・阪神高速の事例を中心に、腐食は沖縄をはじめ塩害地域にある国道・県・市町村の事例をとりまとめ、既往の学術論文等の成果をベースに、必要に応じて本小委員会活動としての調査、解析および実験を実施しまとめる予定です。

【活動期間】

2021年12月～2024年3月頃（約2年間）※旅費、交通費は支給されません。

【公募締切日】

2021年11月26日

【応募方法】

本小委員会に参加希望の方は、(1) 氏名、(2) 年齢、(3) 所属、(4) 連絡先（住所、電話番号、Fax 番号、E-mail アドレス）、(5) 特に興味にある検討事項、等について、下記の応募先まで E-mail にてご連絡ください（書式任意）。なお、応募の際のメール件名は「鋼橋の診断小委員会参加希望」とご記入ください。特に、地方自治体関連の鋼橋の点検診断業務を担当している管理者や技術者の応募を歓迎いたします。なお、20 名程度の委員構成を予定しております。応募多数の場合には参加いただけない場合もございますので、予めご承知ください。

【応募先および問合せ先】

幹事長：木ノ本 剛 （KINOMOTO Takeshi）

首都高技術株式会社 技術部構造技術課

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 3-10-11（虎ノ門 PF ビル）

Tel:03-3578-5768 Fax:03-3578-5766

E-mail:t.kinomoto@shutoko-eng.jp

以 上